



国際会長 (IP) Isaac Palathinkal (インド)

“Talk less, Do more”

「言葉より行動を」

アジア地域会長 (AP) 岡野 泰和 (大阪土佐堀)

“Start Future Now”

「未来を始めよう、今すぐに」

東日本区理事 (RD) 田中 博之 (東京)

「誇りと喜びをもって」

“With Pride and Pleasure”

湘南・沖縄部部長 (DG) 峯尾 舜 (金沢八景)

「一人は皆のために、皆は一人のために」

“One for All, All for One”

横浜クラブ会長 (CP) 天野 皓司

「YMCA とともに、地域社会に根差した活動を」

“Activities rooted in the Local Community with YMCA”

会長 天野 皓司
副会長 高杉 治興
書記 伊藤 誠彦
会計 古田 和彦
直前会長 松島 美一

監事 舟田 正夫
ブリテン 高田 一彦
担当主事 青木 一弘

＜今月の聖句＞

押川 幸男

「主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることが出来ますようにしてください。どうか御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語り出した。

使徒言行録 4章29-31節

今月のひとこと

「会長 2年を終えて」

天野 皓司



今年85周年を迎える名門横浜クラブ。国内外の重職を担ってきた錚々たる方々に囲まれ、新参者の自分に何が出来るのだろうか、不安に駆られながらのスタートであった。会長を引き受けた以上、何か一つでもいい、変わった事をしたいとの思いは強かった。伝統あるクラブなので、一年を通してやる事は決まっている。そんな中で、何が変えられるだろうか。長い会社生活で、変えようとして上手くいかず、煮え湯を飲まされた事が幾度あった事だろう。そんな不安を抱えてのスタートであったが、「日本語スピーチコンテスト」に巡り合えたのは大変幸運であった。皆さんの賛同

を得て、とんとん拍子に話が進んだ。何よりも専門学校の留学生が、真剣に取り組んでくれたのがうれしかった。2年目の今年は、何と開港記念会館で200名以上の聴衆を集めて、成功裡に開催する事が出来た。当クラブのフラグシップ的なイベントに進化してゆく事を願っている。

横浜クラブの特色の一つは、所謂「地元」が存在しない事だろう。構成メンバーは多地域に分散し、地域密着の活動が難しい。そこで当クラブの「地元」はYMCAと位置づけ、一緒になって地域活動を出来るようにしたいと考えた。お手伝いと言うのではなく、一緒にやるとの意識を強くもつ事が心がける。言うまでもなく、ワイズメンズクラブの最大のミッションはYMCAサービスなのだから。最後は活動の基本である会員相互の懇親を忘れてはならない。ウキウキとして例会を待ち、イキイキとして帰る。そんな例会に出来たらと思う。

終わってみればアツと言う間の2年間であった。皆さんの温かいご指導・ご支援に支えられての2年間、感謝の言葉もない。大過なくと言うのも憚れるが、楽しい2年間を送ることが出来て今はホットしている。

＜2015年5月例会実績＞

在籍者	出席者	出席率	B F
17名	メン 8名	56 %	今月分
(功労	メネット 0名	(メーキャップ	切手 0g
会員1	コメント 0名	名を含む)	現金 0円
名を	ビジター 1名		年度累計
含む)	ゲスト 0名	前月修正出席	切手 2,443g
	合計 9名	率	現金 0円

<6月の行事予定>

評価

日	曜	時間	行事内容	場所
6-7	土	13:00	第18回東日本区大会	厚木
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
20	土	10:00	第4回部評議会	中央Y
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

<5月一泊研修例会報告>

伊藤 誠彦

日時：5月22（金）15：00～

23日（土）10：30

場所：横浜市民ふれあいの里 上郷・森の家

出席者：青木、天野、伊藤、今村、金子、高田、田口、松島
ビジター：加藤利榮ワイズ（横浜とつかクラブ）

恒例の一泊研修例会を森の家で開催した。研修会のテーマは「横浜YMCAのことをもっと知るとともに信仰について考えよう」と定め、田口総主事と松島ワイズに卓話をお願いした。

プログラムは1日目がYMCA理解のための研修1とビジネス、食事を挟んで懇親会、2日目が信仰について考える研修会2。

研修会1は高田ワイズの司会により、天野会長の挨拶で定刻に開始。ワイズソング、ワイズ信条唱和、今村ワイズによる聖句。ビジターは一泊研修会にいつも参加下さり、研修会に重みを加えて下さる加藤ワイズ。



「人材の育成が・・・」と田口総主事
(写真提供は加藤利榮ワイズ)

研修会1の卓話は「横浜YMCA公益財団法人化で何が変わったか」。冒頭いきなり、「皆さんが会員になっているのは公益財団法人横浜YMCAではなく、任意団体である横浜キリスト教青年会です」。「え！！？？」。横浜キリスト青年会はホールディングスのようなもので、その下に公益財団法人横浜YMCA、学校法人横浜YMCA、社会福祉法人横浜YMCA福祉会等々の法人がある。多くのスタッフは公益財団法人横浜YMCAに所属し、他の法人に出向している場合もある。各法人にはプロパーのスタッフも……。少し納得。

公益財団法人になってもYMCAの使命は変わらない。「横浜YMCA維持会員ハンドブック」（筆者も維持会員になってから何年も経つが初めて目にする）にある“パリ基準”なるもの

の説明があり、YMCAの事業は“YMCAの願い”を実現するためのツールであ



少し寂しい一泊研修参加者

り、事業そのものが目的では無い。即ち、ボランティア精神とリーダーシップを持った人の育成である。ワイズにも当てはまることであり、これにはつくづく感心した。

事業は公益目的事業比率が50%以上でなければならないが、横浜Yの事業の98%は公益目的と認められている。収支相償（収入が適正費用を超えない）が原則であり、受益者の範囲をできる限り拡大することを目的とする。子供支援基金（BAPY）の存在などもまさにこの精神に合致するものである。

卓話の後の例会では、研修例会に先立って開催された第二例会とほぼ同じ出席者であったこともあって、第二例会に引き続き、若年層会員強化策としての金銭的負担軽減について話し合った。

研修2は、金子ワイズの司会により当初予定を30分繰り上げて開始した。松島ワイズによる「信仰・偶像・シャルリエブド」と題する卓話。

きっかけは今年のスピーチコンテストでのスリランカ留学生による“仏を食べる（日本人）”（鎌倉で仏像をかたどった菓子を観光客が食べている）に衝撃を受けたというスピーチと、今年1月に発生したイスラム過激派による風刺週刊誌「シャルリエブド」本社襲撃事件。

そこから偶像崇拜・文化・言論の自由という普遍的なテーマに結びつけた内容だった。松島ワイズのことは、“松島先生”と尊敬の念を込めて呼ぶことが多い。それは単に大学教授をされていたことだけではなく、その幅広い教養に対する呼称であることを多くの出席者は改めて認識した。

世界宗教は例外なく偶像崇拜禁止であった。ユダヤ教や初期のキリスト教も偶像崇拜を禁止していたし、イスラム教は今でも完全に偶像崇拜を禁止している。

仏教は誕生以来、数百年の間は偶像崇拜は無かったが、その後、ヘレニズムの影響を受けて仏像を作製するようになった。わが国には仏教は大乗仏教として仏像とともに伝来したので偶像禁止の経験は無い。より戒律が厳しい上座部仏教（小乗仏教）においても後に仏像を作製している。（因みにスリランカは上座部仏教の国である。）

偶像を作製するのは見えざる信仰対象を具象化したいという一般信徒の欲求、要望がある。布教効果も大きい。逆に偶像を禁止する理由は、真の信仰対象を歪める恐れがあること、滅失、侮辱の対象になる危険があることである。

キリスト教の聖餐式における聖体拝領（非キリスト者には許されない）のように、どのような行為が尊崇又は侮辱の対象になるかは文化背景に依存する。仏像のお菓子を食べる行為はどうか……

シャルリエブド事件は非イスラム教徒が預言者マホメッドの風刺画を度々掲載しイスラム教徒の反発を招いていた結果発生したもので、偶像と侮辱の解釈の相違が背景にあり、言論の自由の問題が絡んでいる。

2日間の研修は卓話者に負うところが大きかったが、充実した濃密な時間となった。ただ、参加者が1日目9名、2日目7人と少なかつたのが何としても残念であった。



「仏を食べるのは・・・」と松島先生

第69回 Y-Y' s協議会報告

天野 皓司

第69回Y-Y' s協議会が6月2日(火)午後7時より横浜中央YMCAにて開催された。出席者はYMCA側が田口総主事始め各ワイズの担当主事、ワイズ側が鎌倉及び在沖縄2クラブを除く各クラブが出席した。会は礼拝に続いて峯尾部長及び田口総主事の挨拶があり、偶々来日していたバンクYMCA総主事のスワンさん、パヤオセンターのノイさんが紹介された。続いて金沢八景の谷口ワイズの司会の下で協議・報告に入った。

協議事項としては、YMCAからAIDS文化フォーラム(8月7日~9日)及びチャリティーラン(10月17日)への支援要請があり、今城次期部長からもワイズとして全面的に協力するよう各クラブに要請があった。ワイズメンズクラブからは、厚木の堀田会長から東日本区大会への登録者が424名になり、目標をクリアした旨報告された。

報告事項としては、YMCA会員増強キャンペーンで719名の新入会者があり、目標の1500名をクリア出来た事、「Vision2020」として、2020年に各施設・事業の中期計画策定をスタートした事の報告があった。またJICA横浜国際センターの地域交流事業の運営受託する事になり、ホームステイ等の協力要請があった。センターには年間700名近い研修生があり、日本文化の発信者になってもらうよう4月より活動開始したとの事。

続いて各ワイズメンズクラブから報告があり、定刻前の8時15分閉会した。

次回は開催は、9月1日(火)17:00より。

「2015年度横浜YMCA会員総会報告」

古田 和彦

5月30日(土)17時、湘南とつかYMCA1階ホールにおいて、2015年度の横浜YMCA会員総会が行われた。総司会は金子ワイズが担当した。開会礼拝は横浜つづきクラブの相賀牧師が担当、聖書、讃美歌、祈り、横浜YMCA「私たちの使命」の交読を行った。続いて会員総会となり、議長は横浜YMCA常議員会議長の工藤誠一さん。登録総会構成員数469名、出席総会構成員131名、委任状200名で総会は成立した。

第1号議案 2014年度事業及び会計報告の承認、第2号議案 2015年度全体事業方針・計画案及び予算案の承認は、異議なく承認された。小休憩の後、特別プログラムとして、横浜YMCAが支援している福島県いわき市の小島保育園園長伊藤美智子さんから、富士山YMCAでのキャンプにより子どもたちの成長と喜びの様子が報告された。引き続き、第3号議案 常議員の選出、新任3名、改選(2期目)4名、留任2名の選任が行われた。高田ワイズはお休みとなった。第4号議案 会員表彰、41名のリーダーが奉仕賞を、「奉仕の書」には高橋信夫さんが記された。

再び金子ワイズの司会で閉会式。写真撮影を終え、20時10分閉会した。横浜クラブからの参加者は、今村、金子、高田、古田、田口の各ワイズ。帰り、地震の発生でそれぞれ帰宅が遅くなった。

「わたしの近況報告」

押川 幸男



今年の2月に、文京区小石川から大田区馬込の地に引っ越しました。

ようやく落ち着いたところです。馬込教会の牧師です。

最近気になっていることは、今年度4月より子ども子育て制度が大きく変わり、また最近出版された『ルポ 保育崩壊』(岩波新書)によって指摘されているように、保育の現場の混乱と保育の質の低下が問題視されています。

そのような状況の中で、今年度4月から、馬込教会付属「さくら子どもの家」を立ち上げました。幼稚園の園長を20年ほど経験してきましたが、自分の納得するキリスト教保育を実践すべく、新しい保育形態等を目指して、日々励んでいるところです。

私自身、4月から小石川の東京モンテッソーリ教育研究所に通い、様々な乳幼児施設の若い先生たちと共にモンテッソーリ・メソッドを学んでいます。世界の幼児教育・保育にも関心があり、YMCAが目指す教育・保育も参考にしたいと思っています。

今年は、ワイズメンズクラブだけでなくYMCA活動にも出来る限り積極的に協力したいと思っています。今年もどうぞよろしく願いいたします。

「ピンチヒッター」

金子 功



横浜中央YMCAの正面にある平和球場(正式には横浜公園平和野球場)が、また横浜ゲーリック球場と呼ばれていた小学校6年生の頃、私は戸塚の少年野球チームに属し鶴見の潮田小学校と準決勝を戦ったことがある。敗戦が濃くなった

9回の裏に監督の思いやりであろう、ピンチヒッターとして送り出された。粘りに粘ってファウルを数本打った後、三遊間を抜けるヒットを放った。小さな出来事であったが、私の人生にとってはその後も生きることへの自信につながってきたような気がする。

私には、特に秀でたところはないが、オールラウンドプレイヤーとしての素養、(レベルはともかく野球で言えば投手でも捕手でも又内外野手どこでもこなせるような)があるようである。こんな人間は、困った時のトラブルシューターとしては便利のようだ。

本年2月の末のことであった。横浜YMCAの語学教育専門機関のACTの館長から、突然、「横浜銀行のポスターのモデルになって欲しい。写真撮影の日が数日後に迫っているのに予定していたモデルがキャンセルしてきたので困っている。」との事。「夢見る未来」がテーマで、リタイアしたシニアが未来に希望をもって英語の勉強をしている姿をポスターにしよう。写真撮影はACTの教室を会場として行われた。ほんの数分の撮影であったがその間に連続的にシャッターが押され、そのうちの1枚がポスターに印刷された。

4月から6月の3か月間にわたり横浜銀行の店頭に掲示されるという。又、横浜銀行のホームページでも紹介されていることが判った。

キャンセルした当初のモデルのピンチヒッターとして登場し、ヒットが打てたかどうかは疑問の残る所であるが、フォアボールで塁にでた程度の評価はできるのではないかと自己評価している。

何れにしろ、“未来に夢みる人”としてのピンチヒッターに選ばれたことは光栄であり、嬉しいことであった。

第二例会報告

高田 一彦

日時：5月22日（金）14:00～15:00

場所：上郷・森の家

出席者：青木、天野、伊藤、金子、高田、松島

協議・確認事項

1. 行事予定の確認
2. 新年度クラブ役員の確認
3. 新入会員と入会式
・大江浩さん（YMCA同盟）
・斎藤宙也さん（熊本スピリットクラブより転入）
7月9日例会にて入会式を行う予定
4. 東日本区役員会報告
5. ネパール地震緊急支援募金
6月例会のロバ献金を奉げる
6. 総会準備について
資料作成の役割分担を確認
横浜クラブ会費・献金等に関する施行細則の確認
7. 大高治氏中央Y訪問（青木ワイズ）
2010年横浜国際大会で横浜市ボランティアとして、交通関係をサポート頂いた方で、「YMCAの前を通り掛ったので寄ってみた。高田さんを知っている。」とのことで、ワイズのパンフレットを手にしたので、例会へのお誘いをしました。
8. 8月納涼会： 8月20日（木） 於：「驛の食卓」



担当主事 青木 一弘

■ネパール緊急支援報告

現在、横浜YMCAが実施している「ネパール大地震緊急支援」に関しての報告となりますが、5月24日現在の募金合計額は670,890円となっております。ネパールYMCAでは、カトマンズ近郊の村で物資支援などを行っており、6月上旬には世界同盟からスタッフが2名現地へ入り、支援活動のコーディネーターなどをスタートする予定です。過日、発生した余震でも大きな被害があり、ネパールYMCAのチャイルドケアセンターの水供給タンクに被害をもたらしたようですが、建物本体への被害はなかったようです。支援募金の終了は6月30日までとなりますが、引き続き祈りを合わせ、ご協力のほどよろしくお願い致します。

■外国につながる学生のための奨学金制度

横浜YMCAでは、外国につながる若者が自身の背景や経験を活かし、保育士として地域社会で活躍することを目指し、神奈川県福祉事業協会の助成を受け、公益財団法人かながわ国際交流財団と協働で「神遊協・神福協奨学金」を設立いたしました。将来、保育士となることを目指しながら、経済的理由から進学をあきらめていた外国につながる若者が、資格を取得し、目標を達成できるように資金面（学費）の援助を行っていく予定です。詳しくは、YMCA健康福祉専門学校/横浜YMCAスポーツ専門学校まで

■2015年度 リーダーズデーのご案内

横浜YMCAでは、年に1度富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにてリーダーズデーを開催しています。横浜YMCAでリーダー活動をされている方、リーダーOB・OGの方、スタッフOB・OGが一同に集います。それぞれの活動領域を超えて交流を持ちます。久しぶりの再会や新しい仲間との出会いがあります。ご家族での参加や1日だけの参加も可能です。詳細は6月頃よりご案内させていただきます。

日程 10月24日（土）～25日（日）

内容 富士山YMCAのアクティビティや交流会（バーベキュー・焚き火など）

6月例会プログラム

日時： 6月11日（木）18:30～20:30

場所： 横浜中央YMCA 501号室

司会：押川ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶 …… 天野 会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 …… 全員
3. 今月の聖句 …… 押川ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介 …… 天野 会長
5. 食前感謝 …… 押川ワイズ
6. 食事
7. 卓話 「市民活動サポートセンターとYMCA」
高橋 亮氏（横須賀Yスタッフ）
8. ビジネス・報告 …… 天野会長
9. *Happy Birthday* :
成瀬零史（18）、松島美一（18）
10. 閉会点鐘 …… 天野会長

例会報告：神村ワイズ

7月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
9	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
23	木	17:00	横浜クラブ第2例会	同上

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは横浜YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-641-5785